

◎注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュ マンスリー

No.4

2017/10/31

りそなホールディングス 市場企画部



(2017年11月号)

○今月の相場見通し (サマリー)

※各マーケットコメントは10月31日 (火) 9:00現在

		10月30日現在 (矢印は9月末比)	今月の予想 (11月1日～11月30日)
為替相場	ドル・円 (円)	↗ 113.18	上昇 ↗ 110.00 ～ 116.00
	ユーロ・円 (円)	↘ 131.87	もみ合い ↗ 128.00 ～ 134.00
株式相場	日経平均 (円)	↗ 22,012	もみ合い ↗ 20,500 ～ 23,000
	NYダウ (ドル)	↗ 23,349	もみ合い ↗ 21,500 ～ 24,000
長期金利	日本 (%)	↗ 0.07	もみ合い ↗ 0.00 ～ 0.12
	米国 (%)	↗ 2.37	上昇 ↗ 2.20 ～ 2.60

○今月の注目ポイント

米国の税制改正論議が株・金利へ影響

テーマ	注目度	今月の注目ポイント
景気動向	○	【景気動向】米国経済指標は、ハリケーンによる景気の下振れから復興による景気を押し上局面に入っていく。また、マインド指数も高水準が続いており、当面回復基調が継続する見込み。 【物価動向】米CPIや賃金の伸びに明確な加速感はないものの、緩やかな底入れの兆しが窺える。
金融政策	○	【米利上げペース】現在市場で織り込まれている12月利上げ確率は80%程。11月の指標で減速の兆しが見られなければ、12月利上げは実施されよう。焦点は来年の利上げペースに移り、税制改正論議の進捗に左右される。
政治	◎	【米国政治】米議会で予算決議案が可決され、今後は税制改革案の具体的な内容及び議決動向に関心が集まる。来年は中間選挙を控えていることから、議員サイドも実績作りが必要。減税法案に反対一辺倒でもないであろう。23日の感謝祭前には、最終的な法案成立に向けた前向きな動きが出ることを想定。 【日米首脳会談】11/5に日米首脳会談が実施され、米国が日本に2国間自由貿易協定 (FTA) 交渉入りを求めてくる可能性がある。10/16の日米経済対話でも米国がFTA交渉入りに強い関心を示していることから、対日赤字是正に動くとの思惑が広がれば、円高や日本の輸出関連株の下落につながる可能性がある。但し、交渉の決着には時間がかかるであろう。
その他	△	【テクニカル】感謝祭もあり、11月20日から年末までのNYダウのパフォーマンスは過去10年で9勝1敗。

	今月の見通し
為替	【ドル円】 11月は税制改革法案の審議動向が焦点。総論賛成でも各論反対とのスタンスが多く、成立までには紆余曲折が予想される。ドル円の上値は重いであろうが、下旬にかけては議論決着の方向性がみられ、上昇基調に転じよう。 【ユーロ】 ECBは10月に量的緩和の縮小を決定したが、インフレ率が低迷する中、ユーロ高への警戒感強い。月末にかけては12月FOMCでの米利上げも意識され、ユーロは下値模索を予想する。
株式	【日本株】 米税制改正論議進展への不透明感が上値を抑えるものの、好決算を背景に業績拡大期待が高まっていることや日銀によるETF買い入れが引き続き支えとなり、底堅く推移しよう。 【米国株】 税制改正について、法案審議のなかで財政赤字負担等の問題を含めて、当初案からの修正も想定され、売りが先行しよう。しかし、下旬には上下院での審議に目途が立つ見込みであることや、感謝祭後の年末商戦への期待から月末にかけて徐々に値を上げるであろう。
長期金利	【円金利】 良好な需給環境に変化しないものの、10年0.0%に近い水準での買い意欲は乏しい。一方で、10年0.10%台では日銀による指値オペも意識されることから、0.05-0.10%を中心としたレンジ推移が見込まれる。 【米金利】 米税制改正審議の不透明感から、一旦金利は低下しよう。法案審議が決着に向かえば、月末にかけて、金利は上昇に転じるであろう。12月FOMCやその後の利上げ織り込みが進むなかで、2.5%台への上昇を試す展開を想定。

○今月の重要日程

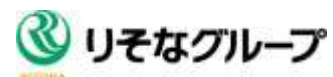
1日 (水)	米	FOMC	14日 (火)	欧	17/3Q・GDP<速報値>
1日 (水)	米	10月ISM製造業景況感指数	15日 (水)	日	17/3Q・GDP<速報値>
2日 (木)	英	金融政策委員会	15日 (水)	米	10月CPI
3日 (金)	米	10月雇用統計	15日 (水)	米	10月小売売上高
3日 (金)	米	10月ISM非製造業景況感指数	23日 (木)	米	感謝祭
5日 (日)	日米	日米首脳会談	30日 (木)	欧	10月CPI

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

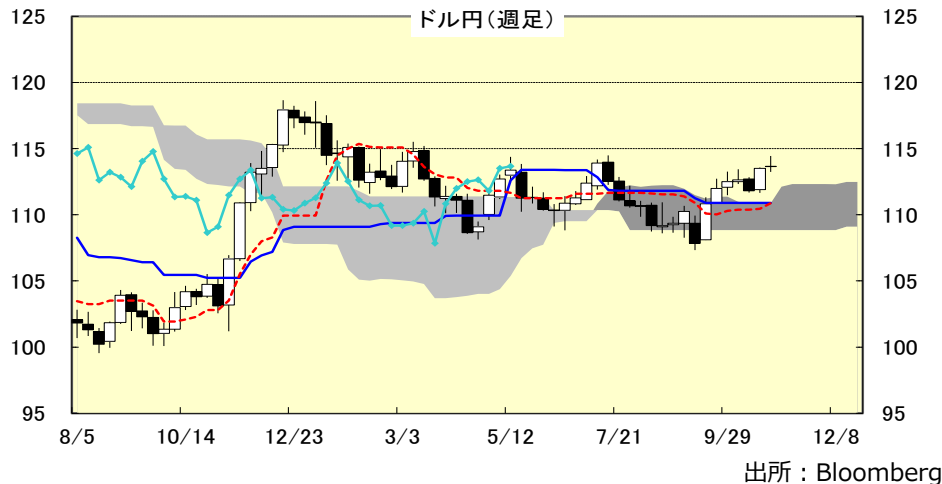


りそな マーケットフラッシュ マンスリー (2017年11月号)

2017/10/31

○今月の相場見通し① 為替

ドル 円



米ドル・円



ドル・円は上昇

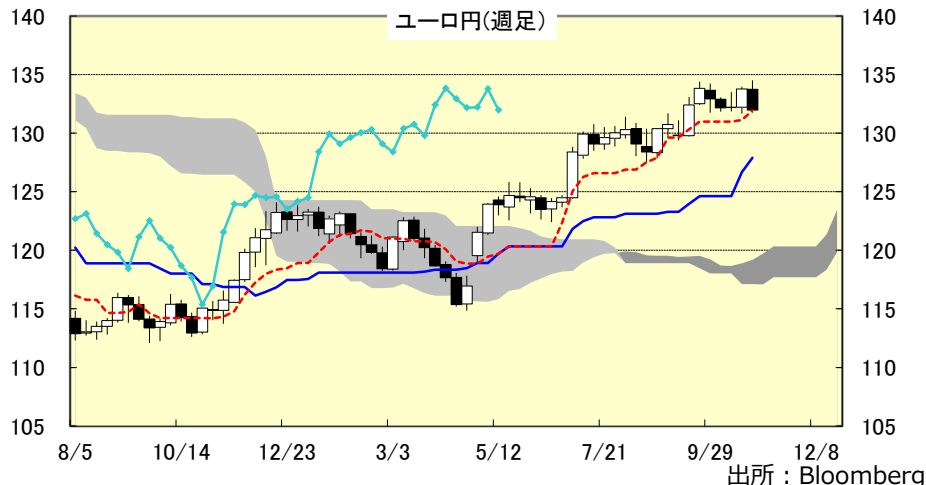
110.00 - 116.00円

ドル円は下押し後、月末にかけて反発を想定

11月は税制改革法案の審議動向が焦点となる。10月までに税制改革の手続きが進展しており、今後は法案の内容が焦点となる。法案については総論賛成でも各論反対とのスタンスが多い。成立までには紆余曲折が予想され、ドル円の上値は重く、下値を探る場面も想定される。トランプ大統領が来日し対米赤字削減の話題が出てくれば、ドル円の更なる重石となろう。

但し、税制改正については23日の感謝祭をターゲットとして審議が進んでいる。下旬にかけては、税制改革審議の議論決着の方向性が見られるであろう。法案の成立に目途が立てば、先行きの景気の上振れや利上げペース拡大の思惑から、ドル円は上昇基調に転じることが想定される。米経済のファンダメンタルズは良好であり、月末にかけては、12月FOMCでの利上げも意識され、ドル円のサポートとなろう。

ユーロ 円



ユーロドル



ユーロドルは下落

1.14 - 1.19ドル

ユーロ円



ユーロ円はもみ合い

128.00 - 134.00円

ユーロは月末にかけて調整色を強めることを想定

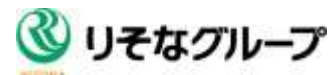
10月ECBでは来年1月からの量的緩和の縮小が決定された。具体的にはこれまで月次で実施してきた600億ユーロの証券買入を300億ユーロに減額し、量的緩和を9か月間延長することとした。ドラギ総裁は今回の措置を受けて、金利先高感やユーロ高が進行することには強い警戒感を示した。また、先行きについても「量的緩和を突然終了することはない」と述べ、期間延長にも含みを残した。インフレ率が低位で推移していることを踏まえると、当局のユーロ高への警戒感は強い。こうしたECBのスタンスはユーロ相場には重石となろう。月末にかけては、12月FOMCでの米利上げも意識され、ユーロドルは下げ足を強めることを予想する。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュ マンスリー (2017年11月号)

2017/10/31

○今月の相場見通し② 株式、長期金利

株 式 見 通 し



日経平均

⇒ 日経平均はもみ合い

20,500 – 23,000円

月初は米税制改正への不透明感や高値警戒感から売りが先行しよう。ただ、税制改正が下旬には目途が立てば、米株・ドル円の上昇が予想されることに加え、良好な企業決算を受けた業績拡大期待や日銀によるETF買い入れが相場を支え底堅い展開を想定。

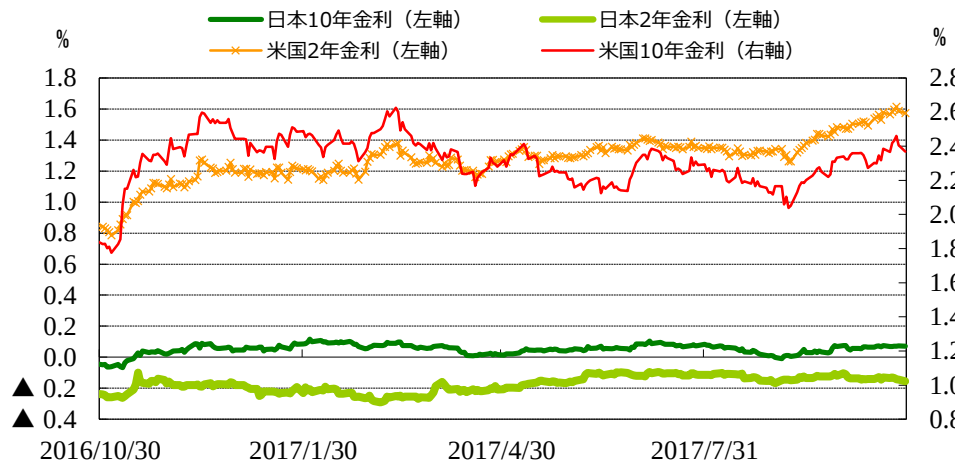
NYダウ

⇒ ダウはもみ合い

21,500 – 24,000ドル

税制改正論議についてはこれまでのところ順調に進展しているが、今後法案の具体的な審議が進められる中で、当初案からの規模縮小等で、下値を探る展開が見込まれる。ただ下旬には法案成立に目途が立つことが予想され、先行き景気の拡大期待が高まる。また例年、感謝祭前後から年末にかけては年末商戦期待もあり、株価は上昇しやすい。**月末から来月にかけては、下げ幅を縮小する展開を見込む。**

長 期 金 利 見 通 し



日本国債10年

⇒ 金利はもみ合い

0.00 – 0.12%

良好な需給環境に変化はないものの、10年0.0%に近い水準での積極的な投資家の買いは見込みづらい。一方、10年0.10%台では日銀による指値オペも意識され、結局**0.05-0.10%を中心としたレンジ推移が見込まれる。**

米国債10年

⇒ 金利は上昇

2.20 – 2.60%

米税制改正審議の不透明感から、一旦金利は低下しよう。法案審議が決着に向かえば、月末にかけて、金利は上昇に転じるであろう。米経済指標は堅調であり、ファンダメンタルズ面からも金利上昇が見込まれる。**10年債利回りは2.5%を試す展開を想定。**

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュ マンスリー

(2017年11月号)

2017/10/31

○マーケットカレンダー

【前半】

	日本	米国	その他
11/1(水)	10年債入札 国庫短期証券(3ヶ月)	10月ADP民間雇用調査 10月ISM製造業景況感指数 9月建設支出	
11/2(木)	10月マネタリーベース 10月消費動向調査		(豪)9月貿易収支 <ブラジル 万聖節>
11/3(金)	<文化の日>	★10月雇用統計 10月ISM非製造業景況感指数 9月製造業受注 9月貿易収支	(豪)9月小売売上高
11/4(土)			<ロシア 国民統一の日>
11/6(月)	日銀金融政策決定会合議事要旨(9/20-21開催分)	<冬時間開始>	★(独)9月製造業受注
11/7(火)	9月毎月勤労統計 流動性供給入札(残存期間1年超5年以下)	9月消費者信用残高	(EU)9月小売売上高 (豪)準備銀行理事会 ★(中)10月貿易統計 ★(独)9月鉱工業生産
11/8(水)	9月景気動向指数 国庫短期証券(6ヶ月)		
11/9(木)	★10月景気ウォッチャー調査		(NZ)準備銀行理事会
	10月貸出・預金動向		(英)9月鉱工業生産・製造業生産
	30年債入札		★(中)10月CPI
	9月国際収支		★(独)9月貿易収支
	国庫短期証券(3ヶ月)		
11/10(金)	10月マネーストック 9月第3次産業活動指数	10月財政収支	
11/11(土)		<退役軍人の日>	
11/13(月)			
11/14(火)	5年債入札		(EU)7-9月期四半期GDP (EU)9月鉱工業生産 (英)10月CPI (中)10月固定資産投資 ★(中)10月鉱工業生産 ★(中)10月小売売上高
11/15(水)	★7-9月期GDP1次速報値 9月稼働率 国庫短期証券(1年)	★10月CPI ★10月小売売上高 11月NY連銀製造業景況感指数 9月企業在庫 9月対米証券投資	(英)10月失業率 <ブラジル 共和制宣言記念日>

【後半】

	日本	米国	その他
11/16(木)	20年債入札 国庫短期証券(3ヶ月)	★10月鉱工業生産 10月輸入物価指数 11月フィラデルフィア連銀製造業景況感指数	(EU)10月CPI (豪)10月失業率
11/17(金)		★10月住宅着工	
11/20(月)	★10月貿易統計	10月景気先行指数	(独)10月PPI
11/21(火)	9月全産業活動指数 流動性供給入札(残存期間5年超15.5年以下)	★10月中古住宅販売件数 10月シカゴ連銀全米活動指数	
11/22(水)	国庫短期証券(3ヶ月)		(EU)11月消費者信頼感指数
11/23(木)	<勤労感謝の日>	<感謝祭>	
11/24(金)			★(独)11月IFO景況指数
11/26(日)			★(独)10月小売売上高
11/27(月)		★10月新築住宅販売	
11/28(火)	40年債入札 日銀金融経済月報	★9月S&Pコア700株CS住宅価格指数 11月リッチモンド連銀製造業景況感指数	(EU)10月マネーサプライ
11/29(水)	10月商業販売統計	10月中古住宅販売成約指数 7-9月期GDP改定値	
11/30(木)	★10月鉱工業生産 10月住宅着工件数	10月個人所得・消費支出 11月シカゴ地区製造業PMI	

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

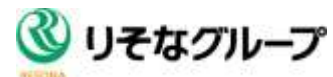
お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュ マンスリー

(2017年11月号)

2017/10/31



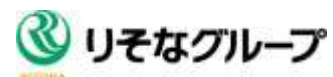
○市場動向

			16年12月末	17年3月末	17年6月末	17年9月末	10/30(月)
外国為替	東京	ドル・円(仲値)	116.55	112.81	112.00	112.74	113.79
		ユーロ・円(仲値)	122.79	119.81	128.02	132.81	132.00
		豪ドル・円(仲値)	84.38	85.82	86.24	88.56	87.33
		NZドル・円(仲値)	81.24	78.47	82.04	81.45	78.06
		ドル・円(15:30時点)	116.61	111.79	112.06	112.69	113.64
		ユーロ・円(15:30時点)	122.90	119.43	128.11	132.75	131.99
		ユーロ・ドル(15:30時点)	1.0538	1.0684	1.1433	1.1780	1.1616
		ドル円直先スワップ(3ヵ月、銭/ドル)	d 55.0	d 41.3	d 45.6	d 53.9	d 55.0
	N Y	ドル・円	116.96	111.39	112.39	112.51	113.18
		ユーロ・ドル	1.0517	1.0652	1.1426	1.1814	1.1651
		英ポンド・ドル	1.2340	1.2550	1.3025	1.3398	1.3208
		スイスフラン・ドル	1.0190	1.0026	0.9579	0.9683	0.9943
株式	東京	日経平均(225種/円)	19,114.37	18,909.26	20,033.43	20,356.28	22,011.67
		東証株価指数(TOPIX)	1,518.61	1,512.60	1,611.90	1,674.75	1,770.84
		日経ジャスダック指数	2,739.25	3,045.84	3,251.67	3,593.10	3,702.65
		東証マザーズ指数	942.68	1,070.89	1,181.74	1,093.10	1,129.14
		東証1部出来高(百万株)	1,667.86	2,222.23	1,968.97	1,731.36	2,371.58
	海外	NYダウ(ドル)	19,762.60	20,663.22	21,349.63	22,405.09	23,348.74
		ナスダック総合指数	5,383.12	5,911.74	6,140.42	6,495.96	6,698.96
		中国上海総合指数	3,103.64	3,222.51	3,192.43	3,348.94	3,390.34
		SENSEX(インド)	26,626.46	29,620.50	30,921.61	31,283.72	33,266.16
		ブラジルボエスバ指数	60,227.29	64,984.07	62,899.97	74,293.51	74,800.34
		MICEX指数(ロシア/ドル建)	2,232.72	1,995.90	1,879.50	2,077.19	2,065.25
商品	金(NY先物、期近)(ドル)		1,151.70	1,247.30	1,242.30	1,281.50	1,277.70
	原油(WTI先物、期近)(ドル)		53.72	50.60	46.04	51.67	54.15
	CRB先物指数		192.51	185.88	174.78	183.09	187.53

			16年12月末	17年3月末	17年6月末	17年9月末	10/30(月)
国内金利	無担保コール	オーバーナイト物	-0.058	-0.060	-0.069	-0.063	-0.040
		3ヵ月	0.05727	0.05727	0.05727	0.05727	0.06727
		6ヵ月	0.10636	0.10636	0.10636	0.10636	0.11636
	日本円TIBOR	2年	-0.195	-0.224	-0.119	-0.170	-0.115
		5年	-0.114	-0.125	-0.070	-0.145	-0.070
		10年	0.041	0.065	0.084	0.000	0.065
		20年	0.570	0.630	0.590	0.535	0.595
	円/円スワップ	2年	0.02456	0.05065	0.04250	0.03549	0.03500
		5年	0.07509	0.10307	0.09877	0.10999	0.10372
		10年	0.22922	0.26436	0.25208	0.26370	0.25874
		20年	0.65604	0.67917	0.63193	0.65865	0.67043
海外金利	米金利	FFレート	0.50	0.81	1.05	1.05	1.16
		TB(3ヵ月)	0.497	0.752	1.011	1.041	1.093
		T-NOTE(10年債)	2.444	2.387	2.304	2.334	2.368
	LIBOR	日本円(3ヵ月)	-0.04657	0.02593	-0.00014	-0.05121	-0.04407
		米ドル(3ヵ月)	0.99789	1.14956	1.29917	1.33389	1.37678
		ユーロ(3ヵ月)	-0.33643	-0.35786	-0.37200	-0.37943	-0.38000
		英ポンド(3ヵ月)	0.36663	0.33744	0.30669	0.33500	0.43306
		スイスフラン(3ヵ月)	-0.72920	-0.72960	-0.73000	-0.72600	-0.72640
		豪ドル(3ヵ月)	1.80000	1.79000	1.71000	1.71000	1.69000
		NZドル(3ヵ月)	2.00000	2.00500	1.99000	1.96000	1.94500

(注) 月末が休日の場合は前営業日データ

◎注意事項をよくお読み下さい



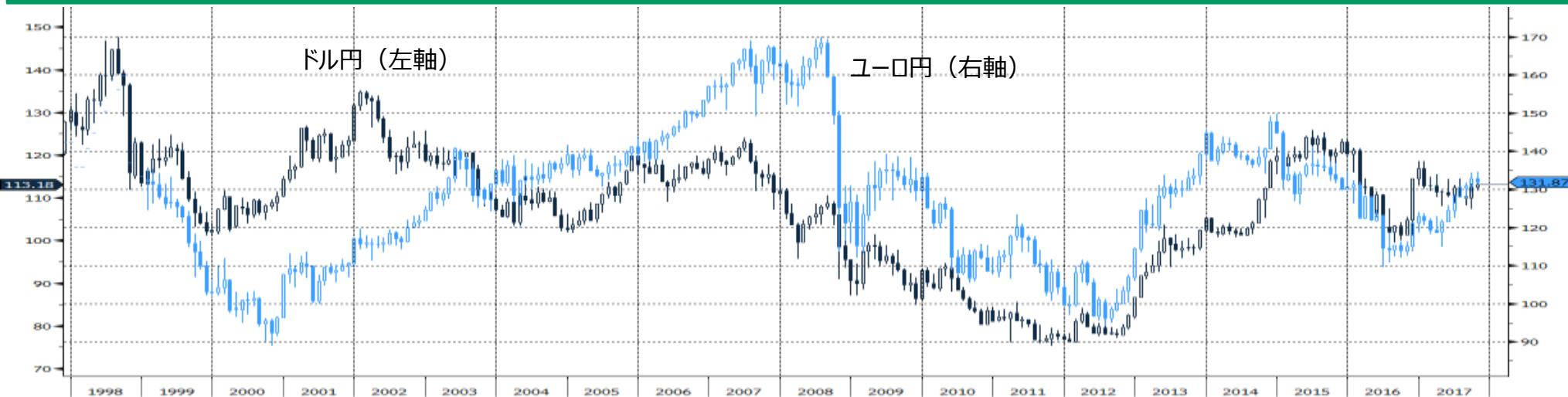
りそな マーケットフラッシュ マンスリー (2017年11月号)

2017/10/31

○チャート集① 過去20年間の相場推移（外国為替、株式）

出所：Bloomberg

ドル円とユーロ円



日経平均とNYダウ

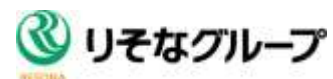


◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュ マンスリー (2017年11月号)

2017/10/31

○チャート集② 過去20年間の相場推移（長期金利、商品）

出所：Bloomberg

米国10年金利と日本10年金利



原油（WTI原油先物）と金（NY先物）

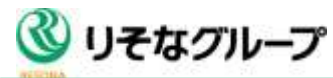


◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



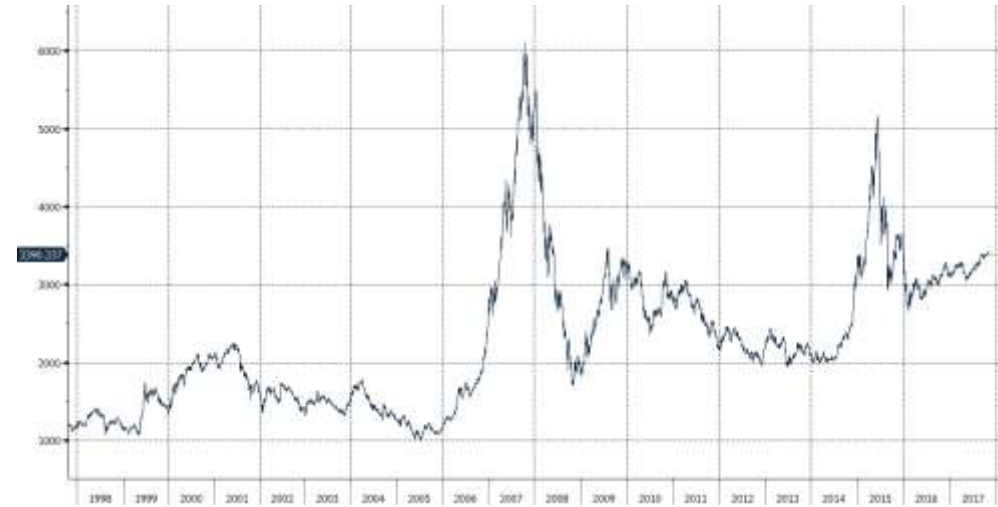
りそな マーケットフラッシュ マンスリー (2017年11月号)

2017/10/31

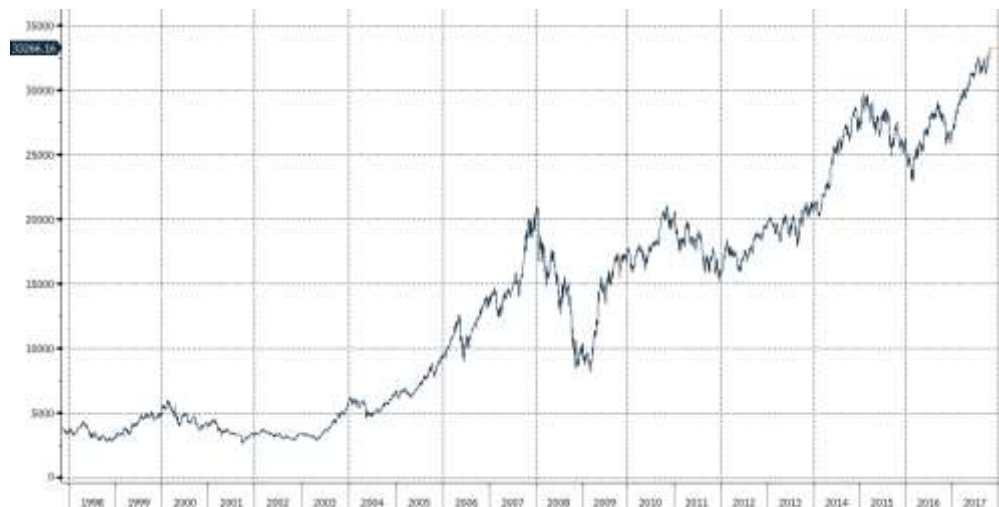
○チャート集③ 過去20年間の相場推移（新興国株式）

出所：Bloomberg

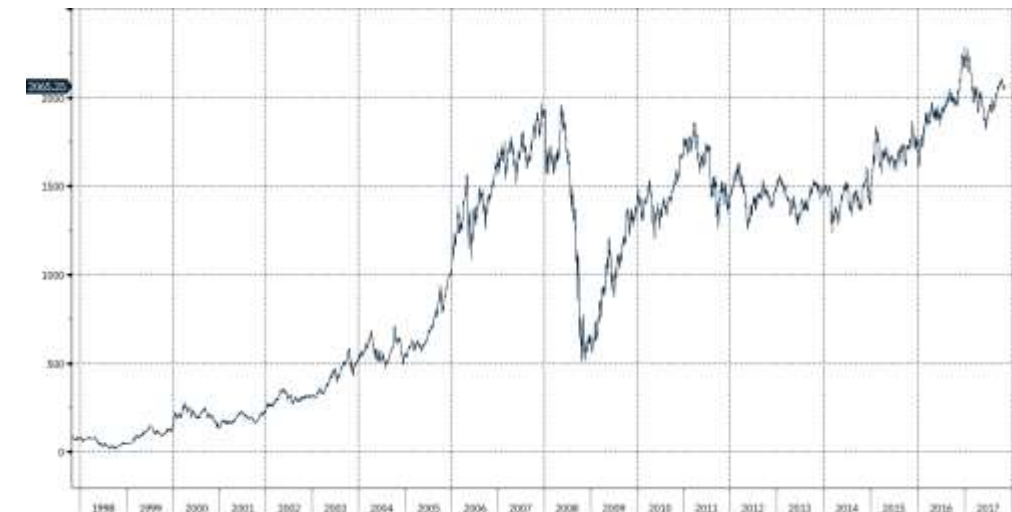
中国上海総合指数



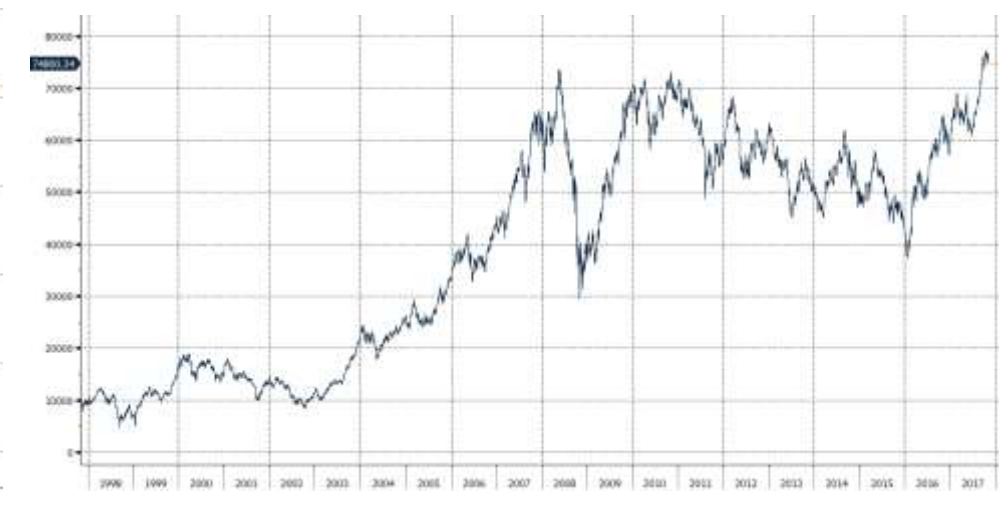
インドSENSEX指数



ロシアMICEX指数



ブラジルBOVESPA指数



◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

りそな マーケットフラッシュ マンスリー

(2017年11月号)

2017/10/31

〇景気の現状と見通し① 日本

景気の現状

緩やかな持ち直し、消費と設備投資の持続性がカギ

日本経済は、緩やかな持ち直しの動きが継続。日銀短観における大企業の先行き判断DIは軒並み低下しており、今後は持続性が焦点となる。

1-1 日銀短観（9月調査）、大企業・製造業の業況判断DIが上昇

9月調査日銀短観、大企業の業況判断DIは6月調査時点から、製造業が上昇（17→22）、非製造業は変わらず（23→23）。一方、先行き判断DIは軒並み低下（製造業：19、非製造業：19）。2017年の想定為替レートは109円29銭となった。

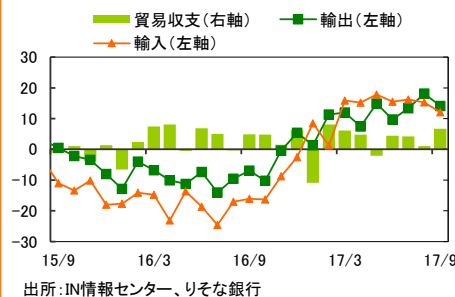
1-2 鉱工業生産、生産は持ち直しの動き

9月鉱工業生産は、前月比▲1.1%と2ヵ月ぶりにマイナス。経済産業省の製造業予測調査によると、10月は+4.7%、11月は▲0.9%の見通し。

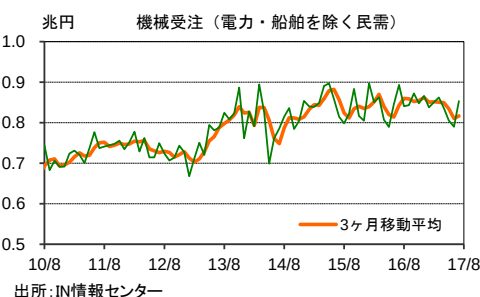
1-3 輸出増加で黒字拡大

9月貿易収支は6,702億円の黒字、4ヶ月連続の黒字。輸出は原動機や半導体電子部品の増加が目立ち、輸入は鉱物性燃料の前年比プラスが続く

貿易統計



機械受注



1-4個人消費、実質ベースで2ヵ月ぶりのマイナス

9月家計調査によると、1世帯当たり消費支出は、前年比▲0.3%と2ヵ月ぶりのマイナス。

1-5機械受注、製造業、非製造業（船舶・電力を除く）、外需が増加

8月の機械受注によると、船舶・電力を除く民間からの受注額は、前月比+3.4%の8,824億円と、市場予想（+1.0%）を上回った。製造業は2ヵ月連続の増加、非製造業は3ヵ月連続の増加。

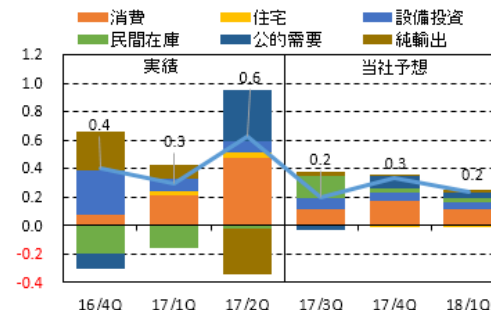
1-6 消費者物価指数、総合、コアの伸び率が共に横ばい

9月消費者物価指数は総合CPIは前年比+0.7%、生鮮食品を除くコアCPIが前年比+0.7%と伸び率は前月と変わらず。

GDP予想

GDP予想 – 2017年度 + 1.5%を想定

日本の2017年度の実質GDP成長率は前年度比 + 1.5%を想定。前月から据え置き。GDP2次速報を踏まえて改定した前回見通しを踏襲。良好な雇用環境を反映した消費の改善と潤沢なキャッシュフローを背景とした企業の設備投資が進むとの前提に変化なし。補正予算の執行に伴い、公的需要も期待できる。



% 前年比増減率	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
	実績	実績	実績	予想
実質GDP	0.5	1.3	1.3	1.5
個人消費	-1.6	0.3	0.4	0.9
住宅投資	-0.3	0.1	0.2	0.1
設備投資	0.4	0.1	0.4	0.4
在庫増減	0.5	0.4	-0.4	-0.2
公的需要	0.0	0.3	0.1	0.4
外需	0.6	0.1	0.6	0.0

【出所】IN情報センター、りそなHD

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

○景気の現状と見通し② 米国・欧州・中国

米国

9月の指標はまちまち

米国経済は、ハリケーンの影響を受けて、雇用が低調となった一方、消費や物価は耐久財の買い替え需要やガソリン需要を受けて良好。また景況感データは企業・消費共に堅調に推移。

7-9月期GDP速報値、前期比年率+3.0%（4-6月期：3.1%）

個人消費が+2.4%（4-6月期：+3.3%）、設備投資が+3.9%（同：+6.7%）と伸びが鈍化したもののプラス寄与。

9月雇用統計、非農業部門雇用者数は前月比▲3.3万人

製造業▲1千人（8月+41千人）は2ヶ月ぶりに減少、サービス業は▲49千人（8月+98千人）と大きく減少した。賃金は前年比+2.9%と今年最大の伸びを記録した。

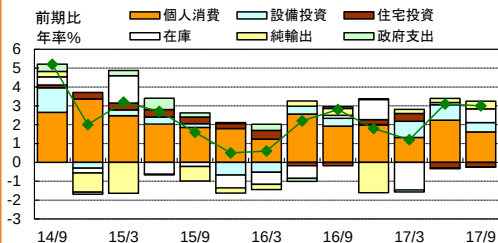
9月小売売上高は前月比+1.6%、市場予想は下回るも急増

全13業種中8業種で売上が増加、ガソリンスタンド、自動車・同部品、建設資材などが増加した一方、家電、その他小売、家具などが減少した。

9月消費者物価、3カ月連続で上昇

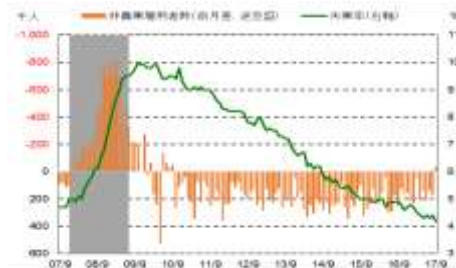
総合は前年比+2.2%（8月+1.9%）、コアは前年比+1.7%（8月+1.7%）であった。

GDP



出所：Bloomberg

雇用統計



出所：HAVER、りそなHD

欧州

ドイツ経済、堅調な景気拡大が示唆された

ドイツ経済指標は依然として良好、堅調な景気拡大が示唆された。

8月鉱工業生産、製造業受注は前月から大幅増。9月小売売上高は3カ月ぶりに増加。貿易面では、黒字幅が拡大した。

10月景況感指数は独IFOは過去最高を更新、ZEW（期待）は2ヶ月連続で改善した。

ユーロ圏では、PMIは前月比で製造業が上昇した一方、非製造業が低下。物価面では9月消費者物価指数が前年比+1.5%（8月+1.5%）と横這い。

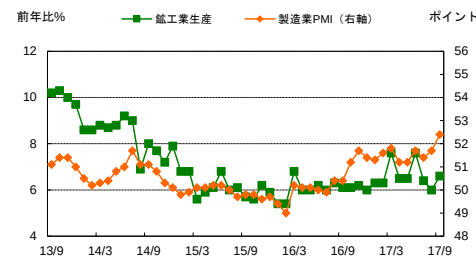
中国

9月の指標はまちまち

9月の鉱工業生産は前年比+6.6%（8月+6.0%）、貿易は輸出額が前年比+8.1%（8月+5.1%）、小売売上高は前年比+10.3%（8月+10.1%）、固定資産投資（年初来）は前年比+7.5%（8月+7.8%）と鈍化した。

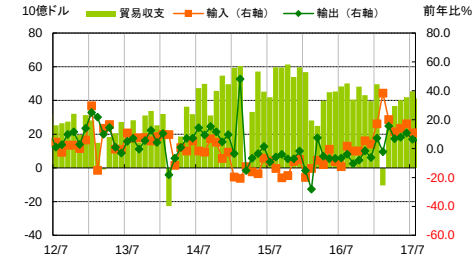
9月消費者物価指数（CPI）は前年比+1.6%と、8月+1.8%に比べ伸びが鈍化。

鉱工業生産と製造業PMI



出所：Bloomberg、りそなHD

貿易統計



出所：Bloomberg、りそなHD

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。